中等教育コース国語教育専修（科目区分），日本芸能史（授業科目名）

能・狂言の歴史に触れる

所属・小助川元太

１．授業の基本情報・概要

日本芸能史は、学校教員養成課程中等教育コース国語教育専修の国文学分野の選択科目である。本授業では日本の代表的な古典芸能であり、和の文化を象徴するものの一つである能狂言にテーマを絞り、渡来芸能としての散楽から徳川幕府に式楽として保護されるまでの、猿楽能の史的展開を辿る。

現在、国語の学習指導要領では「伝統的な言語文化」を重視し、小学校高学年から簡単な古文が導入されているが、以前は参考程度に教科書に掲載されてきた〈柿山伏〉などの狂言台本も、新しい検定教科書では授業で本格的に取り上げる教材として扱われている。これから教壇に立つ学生には、能狂言に関する正しい知識を身につけさせる必要があると考えている。

さて、今年度のシラバスに記載した授業の目的と目標は以下のとおりである。

【授業の目的】

能狂言の形成・展開を学び，テキストを読解することによって，日本を代表する芸能を深く知り，和の文化を見直すきっかけとする。

【授業の目標】

1．能狂言に関する基礎知識を身につける。
2．能狂言が他のジャンルの芸術に及ぼした影響を説明することができる。
3．テキストの読解を通して，能狂言に関する知識を深める。

上記の目標・目的を達成するべく、以下のような授業と評価を行った。

【授業の進め方】

1．能狂言の歴史について
　プリントを配付して講義を行う。
2．作品講読
　『風姿花伝』『申楽談儀』などの世阿弥の伝書や能の台本（謡曲）を読む。
3．作品の鑑賞
　能・狂言を DVD で鑑賞する。

【実際の授業内容】

第１回:ガイダンス。授業の進め方の説明。
第２回：散楽から猿楽へ
第３回：翁猿楽について
第４回：猿楽の伝承（『風姿花伝』神儀云）
第５回：猿楽の伝承（『風姿花伝』神儀云）
第６回：南北朝期の芸能界と観阿弥登場
第７回：観阿弥の大改革・〈自然居士〉
第８回：世阿弥と義満
第９回：観世座大夫としての世阿弥
第 10 回：義持と世阿弥・〈井筒〉
第 11 回：義教と世阿弥
第 12 回：元雅・〈隅田川〉
第 13 回：音阿弥と金春禅竹
第 14 回：金春禅竹・〈定家〉
第 15 回：試験・戦国～江戸の能狂言

【成績評価】

試験（60%）、レポート（20%）及び授業に取り組む姿勢（20%）により、総合的に評価する。

２．授業評価・授業研究の内容

授業評価については、最終授業の際に匿名のアンケートを行った。（21 名）質問項目は以下のとおりである。

1. 授業に真面目に取り組んでいましたか？
2. 授業内容は理解しやすかったですか？
3. 授業で学んだ内容で、とくに興味を持ったところやおもしろかったところは？
4. 3 について、どのようなところに興味やおもしろさを感じましたか？
5. 意見・要望・感想・メッセージなどがあれば、書いてください。

３．授業評価結果

1. 授業に真面目に取り組んでいましたか？

ア　真面目に取り組んだと思う。　（9 名）
イ　ときどき集中していなかったときもあった。　（12 名）
ウ　あまり真面目に取り組んでいたとはいえない。　（0 名）

2. 授業内容は理解しやすかったですか？

ア　理解しやすかった。　（12 名）
イ　ふつうだった。　（8 名）
ウ　難しかった。　（1 名）

3. 授業で学んだ内容で、とくに興味を持ったところやおもしろかったところは？（抜粋）

○能楽という芸能がどのように今まで残ってきたのか
○能についての歴史・発展。
○今まで能や狂言は昔の言葉で演じられていてわからないと思っていたが、内容を知って演技を見てみると、すんなり内容が入ってきてより演技の面白さが伝わってきた。芸能の歴史について興味を持った。
○時代の権力者によって変化する能の世界。
○世阿弥が多くの苦難を乗り越えているところ。
○世阿弥がいかにして当時の権力者に認められるか、様々な手法を用いたところ。
○能という演劇の中に和歌が取り入れられているところ。
○能に百人一首や伊勢物語が引用されている点。

4. 3について、どのようなところに興味やおもしろさを感じましたか？（抜粋）

○歴史的な背景とともに芸能について考えることができたところ。
○中学や高校ではほとんど触れることのなかった内容で、日本史との関係も深くあったこと。
○能の世界だけでなく、外部の影響を受けているところ。
○何となく世阿弥は観阿弥のコネで寵愛を受けていた、というイメージがあったので、観阿弥死後十数年の世阿弥の苦労を知れたところ。
○今までの歴史の授業では触れられたことはなかったので、こういう人々の支えがあって古典芸能は今日も存在しているのだということが分かり、大変興味深かった。
○『風姿花伝』における年齢別の能の稽古の方法。
○一つのスタイルにこだわりすぎず、時代に適応すべく自らの能を進化させ続け、かつ、能の核となる部分は曲げなかったところ。

5. 意見・要望・感想・メッセージ（抜粋）

○スライドで現代語訳が映されていたとき、メモをとる時間が足りなかった。スライドの一覧または資料がほしい。
○配布される資料が多すぎて、勉強がしづらかったです。何か教科書一冊にまとまらないでしょうか。
○スライドなどで書く時間をもう少し設けてほしい。まとめプリントの配布。
○教科書では１ページ程度しか紹介されていなかった観阿弥や世阿弥が、時の将軍に密接に関わり、興味深い歴史があるのだなと、素直に楽しかったし、大学の授業という感じがした。
○この授業で、これまで全く知らなかった日本芸能について歴史や特徴を学ぶことができた。また私たちには難しいと思っていた能や狂言が想像よりも見やすくおもしろいと感じた。もっと日本の芸能に関心を持ってみようと思う。

３．「授業時間外学習の促進」について

とくに宿題を出したわけではないが、授業で配布をした参考資料で、授業では触れなかった部分については、各自読んでおくようにほぼ毎回指示をした。

４．総括

本授業は７年目になるが、毎年アンケートの結果をもとに、スライドや授業の内容、資料などを少しずつ改善してきた結果、授業を通して、堅苦しいイメージで敬遠されがちな能・狂言に親しみを感じることができたり、猿楽の歴史や文学としての能本（謡曲）の魅力に気づくことができたりする学生の割合が増えてきていることを実感する。なお、以前使っていたテキストが絶版となってしまったことで、配布するプリントが今まで以上に多くなってしまった。アンケートにも指摘があったので、次年度は別のテキストを指定することにした。また、学生の要望の中に、まとめのプリントの配布を求める声があったが、教員を目指す大学生に、そこまでしてやる必要はないものと考えている。